

自著と  
その周辺

## ワシントンマニュアル 循環器内科アップグレード

池田宇一 監訳

メディカル・サイエンス・  
インターナショナル  
452頁  
2010年  
定価 6,000円

マニュアル本やハンドブックが多くの職種で大流行の昨今である。医療の現場も同様で、「聖路加国際病院内科レジデントマニュアル」など多くのマニュアル本が出版され、若い医師達に利用されている。私が研修医だった1980年頃はそのような類の日本語の医学書はほとんどなく、The Washington Manual of Medical Therapeuticsなどが読まれていた。本書については大抵の臨床家はご存じと思うが、ワシントン大学の内科レジデント達により1943年に第一版が出版され、その後3年毎に全面改定され、新鮮な内容と実用性の故に世界の臨床家や研修医および学生に愛用されるベストセラー医学書となっている。1977年には日本語版「ワシントンマニュアル」が翻訳出版され、私も1984年の日本語第3版から現在の第11版まで循環器領域の翻訳を担当してきた。

その関係で出版社から、同じワシントン大学の循環器内科レジデント達により書かれた「ワシントンマニュアル循環器内科アップグレード」の翻訳を依頼された。当初は大変躊躇した。というのは前年に「心不全エッセンシャルガイド」というハンドブックを教室で翻訳し、出版しており、教室員に翻訳疲れがあったためで。「心不全エッセンシャルガイド」は英国のOxford Specialist Handbooksシリーズの1冊で、米国の医学書に慣れ親しんでいた我々にとって、英国文化の香りのする新鮮な内容で、楽しく翻訳し、出版できた。

一方、「ワシントンマニュアル循環器内科アップグレード」の原著も手に取ってみると、これもまた大変素晴らしい内容であった。本書に書かれている診断や治療法は、ワシントン大学循環器内科の第一線の医師達が実践しているものであり、教室員も大いに勉強になるだろうという親心(?)もあり、つい翻訳を引き受けてしてしまった。

それが大誤算で、ハンドブックでありながら相当に充実した内容であったため、翻訳を担当した35名の教室員に多大な負担をかけてしまった。私自身も、監訳と校正に夏休みと正月休み、そして多くの週末を費やすことになった。引き受けたことを何度も後悔したが、その分かなり完成された訳本に仕上がったと自信をもっている。内科の「ワシントンマニュアル」から一歩踏み出して循環器診療の知識をアップグレードした実践的な内容となっており、実地医家や循環器内科医および研修医にご愛読いただければと思っている。



(信州大学大学院医学系研究科臓器発生制御医学講座 循環器病態学分野 池田 宇一)